

国際課活動レポート

◆ブルネイ青少年交流団来県【11月27日～12月4日】

長く交流が続くブルネイ・ダルサラーム国ヤヤサン高校の青少年交流団が来県しました。企業等への訪問を通じ和歌山の産業を学ぶとともに、昨年夏にブルネイを訪れた青少年派遣参加者ゆかりの場所をめぐるしました。由良町では、語り部の方の案内のもと、戸津井鍾乳洞や白崎海岸を見学しました。風が強く寒い日でしたが、真っ白な石灰岩が織り成す景色や形がそっくりなスノーピー島を見て、インスタグラムにアップしようと写真の撮影に大張り切りでした。由良町名産のわかめ寿司作りも体験し、地元の味を楽しみました。滞在最終日には元ブルネイ大使である仁坂知事を表敬訪問し、受け入れへの感謝の気持ちを伝え、伝統的な踊りを披露しました。



◆山東省青少年訪問【12月15日～12月18日】

昨年12月15日～18日まで、山東省アイクリエイトの青少年たち（生徒41名、先生4名）が“きのくにロボットフェスティバル2017”に参加するために、和歌山県を訪問しました。16日午前中、御坊小学校の生徒さんと交流戦、交流会を行い、午後は第11回全日本小中学生ロボット選手権に参戦しました。17日、本戦に出場した後、和歌山市内に戻り、18日松田商店工場見学をし帰国の途につきました。



◆香港・インド訪問【1月28日～2月1日】

仁坂知事は、1月28日～2月1日の日程で、香港及びインド共和国マハラシュトラ州を訪問しました。

香港では、和歌山県と提携している香港貿易発展局のマーガレット・フォン総裁と会談しました。また、飲食業界の団体・企業や旅行会社を訪問し、県産品の販路拡大と観光客誘致を目的としたトップセールスを実施しました。

インドでは、和歌山県とマハラシュトラ州との間で平成25年10月に締結した「相互交流に関する覚書」を更新しました。デヴェンドラ・ファドナヴィス州首相をはじめ同州幹部との会談では、今までの観光分野や食品加工分野にとどまらず、今後は青少年交流やスポーツ交流など、さまざまな分野で交流を発展させていくことで合意しました。現地では、本県の観光地や企業をPRするためのプロモーションや、今回の知事訪問に同行した企業とインド企業とのビジネスマッチングも実施されました。



文化紹介

◎黄中国語国際交流員による文化紹介です。

『海底捞 (はい でい ろう)』

中国北京の鍋料理店、「海底捞 (はい でい ろう)」はサービスがいいことで有名です。私はずっと以前、インターネットでこの店のサービスの良さについての記事を読んだことがありました。そこで、この前の正月休みを利用して、北京へ旅行した時、海底捞に食べに行きました。王府井の近くの店でした。冬の北京は気温が低く、観光客が少ないシーズンですが、海底捞は満席でした。待っている間、ただでネイルケア、靴磨きなどのサービスも提供していました。私たち4人は全員ネイルをしてもらいました。鍋のスープは沢山の種類から選べますし、具材は人数によって量を半分にしてもいいです。



すべて、自分達で店のタブレット端末を使って注文します。果物、野菜サラダ、たれなどはセルフサービスで、食べ放題です。日本では西瓜などの果物が高くて、なかなか買えませんので海底捞でいっぱい食べました。この店の面白いところは、ラーメンを注文したら、店員さんがテーブルのそばに来て麺を作ってくれるところです。値段も

安く、4元(70円)でした。ほかの料理店の店員さんと違って、この店の店員さんはとても明るくて、積極的でした。私たちは座ってから、店員さんがすぐに髪の毛をくるぐむをくれて、靴、服を汚さないようにカバーしてくれました。食事後トイレへ行った友達を待っていた間、暇つぶし用のおやつも持ってきてくれました。

なかなか面白い店ですので、もし中国へ行かれることがありましたらぜひ訪れてみてください。



異文化体験記 ◎和歌山県職員による「異文化体験記」です。

皆さん、こんにちは！この冬は本当に寒かったですね。世界的な寒波が猛威を振るい、日本各地でも大雪による被害が発生したようですが、皆さんのところは大丈夫でしたか？

私が今いる中国の青島市でも、今年が一番寒い時で-10℃近くまで気温が下がりました。人からは「寒くて大変やろ」と心配されますが、実はそうでもなく青島の冬は和歌山よりも暖かいと言えるかもしれません。このカラクリは暖房にあります。

中国北部の都市にある家庭には、暖気（ヌアンチー）と呼ばれる共同暖房設備が整備されています。これは、ボイラーで温めたお湯又は蒸気を、パイプを通して建物内を循環させて暖めるセントラルヒーティングシステムです。こう聞くと日本にもある床暖房と同じように感じるかもしれませんが、一戸の家の中で完結する日本の床暖房と異なり、暖気（ヌアンチー）は、地域毎にボイラーを設置し、街中に張り巡らせたパイプを通して各建物に暖気を供給する都市規模の共同暖房設備で、電気や水道等と同じ都市インフラの一つです。ヨーロッパの寒い地域で発展してきたシステムのようなのですが、中国では1950年代に、政府主導で寒さの厳しい北部地域に導入されました。

共同暖房の整備された住居には、台所やトイレなどを含め、各部屋のだいたい窓近くに末端装置である放熱器が設置されており、冬になると24時間部屋全体をだいたい16~24℃くらいに暖めてくれます。放熱器は火傷するほど熱いものではなく、触っても温かい程度なので子供のいる家庭でも大丈夫です。またこのような放熱器の他に、床全体にパイプをめぐる床暖房を整備しているところもあります。ストーブなどのように局所的ではなく、部屋全体が暖かく、さらに灯油交換などの面倒もなく、シーズン初めに部屋の面積に応じた暖房費を大家さんかマンションの管理会社に払えば後は手間いらずです。



暖気（ヌアンチー）の放熱器

本当にありがたい暖気（ヌアンチー）ですが、難点もあります。最大の難点は何といっても大気汚染です。中国の大気汚染は、冬になると悪化し、南部よりも北部の地域で汚染が深刻なのですが、これは共同暖房の稼働時期やエリアと一致しています。暖気（ヌアンチー）の燃料には石炭を使っているところが多く、これによる大量の煤煙が大気汚染の大きな要因と目されています。

近年中国政府は環境対策に力を注いでおり、特に2017年は石炭から汚染の少ない電気又は天然ガスによるボイラー設備への転換を強力的に進めました。私のいる青島でもこの冬から石炭に代わって天然ガスによる暖気の提供が行われています。この暖房設備の改革は、天然ガスの需要急増により価格高騰と供給不足が引き起こされたことや、石炭式からガス・電気式の暖房への設備改修が間に合わない家庭や施設が多数あったにも関わらず、石炭の厳しい使用制限が行われたことなどから議論を呼びましたが、大気の改善という点で見ると、功を奏したと言えます。私が中国に赴任したのは2015年で、当初は聞きしに勝る大気汚染に驚いたものでしたが、この冬は前の二年に比べて青空を見る機会がかなりあり、空気の改善を実感しました。

安全、安価で安定した暖房を等しく市民に提供することが暖気（ヌアンチー）の大きな使命ですが、さらにクリーンであることも重視されるようになっていきます。青い空と暖かい家をめぐる中国の闘いはまだまだ始まったばかりです。

〈宮本実穂（平成29年4月より中国山東海峡国際旅行社にて研修中）〉